

誤飲事故による保険金請求件数は、1ヶ月あたり約1,100件！*

* アニコム損保にて2012年4月1日～8月31日までに受け付けた保険金請求のうち、症状名が「誤飲」に関連する事故の1ヶ月あたりの平均請求件数

誤飲事故 月別請求件数

請求年月	件数
2012年4月	1,096
2012年5月	1,194
2012年6月	1,041
2012年7月	1,167
2012年8月	1,113

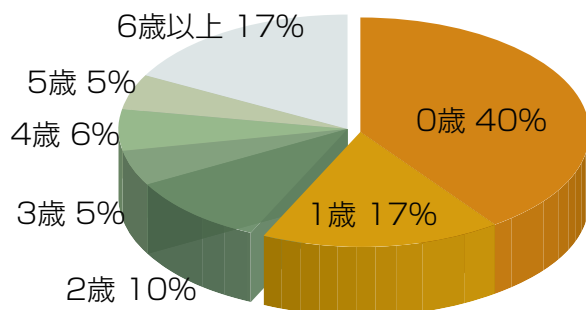
■誤飲は身近な事故？

アニコム損保で2012年4月～8月に受け付けた保険金請求のうち、誤飲事故による請求は、1ヶ月あたり、なんと約1,100件でした。1日あたり約40件弱の誤飲事故が起きており、誤飲がとても身近な事故であることがわかります。

■幼児期の誤飲に注意！

左図をご覧ください。0歳から1歳までの誤飲件数が全体の約57%を占めており、圧倒的に多い事がわかります。好奇心いっぱいの幼児期は、何でも口に入れてしまいそのまま飲みこんでしまうことがあるので、特に注意が必要です。

誤飲事故 年齢別請求件数 (2012年9月現在)



0歳から1歳までの誤飲件数が、全体の約57%!



■飼い主さんができる予防策

- ・ どうぶつさんの行動範囲に、食べてはいけないものを置かない。
- ・ 飲み込んでしまう危険のある小さなおもちゃを与えない。

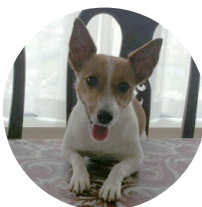
ワンちゃんの「竹串」の誤飲に注意！

アニコム損保が実施した誤飲に関するアンケート結果から、特にご注意いただきたいものをご紹介します。今回は、「竹串」についてです。

焼き鳥を、お肉と一緒に竹串ごとパクリ！という事故が起きています。万が一、竹串を飲み込んでしまうと、胃や腸に刺さり、最悪の場合、亡くなることもあり、大変危険です。

■口にしても、慌てない！

口にくわえているのを見つけても、飼い主さんは絶対に焦ってはいけません。「ダメ！出さない！」と大きな声をだしたり、無理に口から出そうとすると、逆に飲み込んでしまうことがあります。



■万が一の場合はすぐに動物病院へ

もしも飲み込んでしまった場合には、無理に吐かせると危険な場合がありますので、すぐに動物病院へ連れて行きましょう。

■「貸して」「ちょうだい」の練習は効果的！

誤飲を防ぐ為に、普段から「貸して」や「ちょうだい」というと、口にくわえたものを飼い主さんに渡す練習をしておくことで、万が一危険なものをくわえてしまっても、冷静に対処することができます。

●裏面の「どうぶつさんが食べてはいけないもののリスト」もぜひご参考になさってください。

STOP 誤飲新聞は、ちょっとした注意で防げる誤飲事故を1件でも減らしたい！という強い思いのもとに生まれた新聞です。実際の保険金請求データや獣医師のアドバイスから、誤飲に関する予防情報を発信していきます。また、「どうぶつ相談室サイト」では、どうぶつさんのしつけやお手入れ、健康管理をもっと知っていただくための情報を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

どうぶつ相談室

検索

【発行元】アニコム損害保険株式会社 〒161-8546 東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル2F

【お問い合わせ先】

あんしん
サービスセンター

0800-888-8256

携帯電話・PHSからはこちらへ **03-6810-2314**

受付時間: 平日 9:30～17:30 土日・祝日 9:30～15:30

※ご利用のIP電話のご契約状況により、左記「0800」の番号にはつながらない場合があります。
※サービス向上のため、通話内容を録音させていただく場合があります。

どうぶつさんが食べてはいけないもののリスト

たまねぎ・ねぎ・にら・にんにく類



感受性に個体差がありますが、アリルプロピルジスルフィドという成分によって赤血球が壊されるため、貧血を起こすことがあります。直接食べるだけでなく、煮汁も中毒を起こします。

チョコレート・お茶等



チョコレートやお茶に含まれるテオブロミンやカフェインは、心臓・中枢神経系を刺激し、場合によっては死に至ることもあります。例えば体重10Kgのワンちゃんが約100gのチョコレートを摂取した場合でも、これらの症状が現れる恐れがあります。ちなみに一般的な板チョコは1枚約70gですので、小さいワンちゃんの場合はひとかけらでも注意が必要です。



ナッツ(特にマカダミアナッツ)



多量摂取により、運動失調や後肢の麻痺を起こすことがあります。

生のイカやタコ・エビなどの魚介類



生の魚介類に含まれるチアミナーゼは、摂取し過ぎると体内のビタミンB1が破壊されて神経障害を起こし、ふらつきや歩行困難を生じることがあります。さらに、ネコちゃんでは脂肪の酸化を抑えるビタミンEの摂取量が足りない状態でアジやサバなど青身の魚を過剰に食べると、これらの魚に含まれる不飽和脂肪酸が酸化して炎症を起こすことがあります(黄色脂肪症:イエローファット)。

なお、チアミナーゼは加熱すれば効力を失います。魚介類には必須アミノ酸のタウリンを多く含むという長所もあります。加熱して、適量をバランスよく与えましょう。

牛乳などの乳製品



ワンちゃん・ネコちゃんは牛乳に含まれるラクトース(乳糖)を分解する酵素が少ないので、量によっては消化不良や下痢を起こしてしまうことがあります。ヨーグルトやチーズなどはラクトース(乳糖)が分解・除去されていますが、様子をみながら少しずつ与えるようにしましょう。

レーズン・ブドウ



ワンちゃんに有害である事が立証されており、重度の場合、腎不全から死亡する例も報告されています。ネコちゃんについては、まだよく分かっていないようです。

キシリトール



キシリトールの代謝や感受性は、人とワンちゃんとは大きく異なります。キシリトールの摂取により、血糖を下分泌されるので低血糖症を起こしたり、肝臓に障害を起こしたりする可能性があります。

生卵の白身



生卵の白身には、ビオチン(ビタミンB群の一種)の吸収を妨げるアビジンが含まれています。そのため過剰な生卵の摂取はビオチン欠乏を引き起こします。

鳥や魚の骨



先がとがっている骨は口の中や食道・胃腸を傷つける恐れがあり危険です。飼い主様のパーティー後の食べ残し、道に落ちていた鳥の骨なども注意しましょう。

アボカド



アボカドに含まれるペルジンの多量摂取により、胃腸炎を起こす恐れがあります。フェレットさん・うさぎさん・鳥さんなど小動物にとっては少量でも危険です。

生肉



生肉の摂取についてはさまざまな意見がありますが、寄生虫や細菌への感染が懸念されるため、与えない方がよいでしょう。特に生の豚肉は、トキソプラズマという原虫感染症を起こす危険があります。